

編集後記 真ん中に据えるもの

先月まで開催されたミラノ・コルティナ冬季オリンピックでは、日本選手団が獲得したメダル数が史上最多を更新しました。

表彰のたびに掲揚される日の丸の旗に胸が熱くなった方も多いのではないのでしょうか。感動を与えてくれた選手たちに、心から感謝したいと思います。

一方、先日のWBCでは日本にとって残念な結果となりました。しかし、勝ち負けは時の運。(>_<)

結果にかかわらず、日の丸を背負って戦ってくれた選手たちを温かく迎えましょう。

ルールのもとで正々堂々と競い合うスポーツは、やっぱり素晴らしいものです。(^_^)!

天照大御神



こうした「勝ち負け」に関して思い起こされるのが、中東に伝わる「ハンムラビ法典」です。

「**目には目を**」という言葉は、「やられたらやり返せ」という意味に捉えられがちですが、本来は「倍返し」のような**過剰な報復を防ぎ、制裁を被害と同程度にとどめることで報復の連鎖を断つ**という考え方です。

しかし現実の世界では、必ずしもそのように抑制が働くとは限りません。とりわけ、強い力によって相手を屈服させようとする姿勢は、ときに事態をより深刻な方向へと導いてしまいます。

誤解であればいいのですが、僕はトランプ大統領に、寓話「**北風と太陽**」の北風を連想してしまうのです。



「**北風と太陽**」は、北風と太陽のどちらが旅人の上着を脱がせることができるかを競う物語。

北風は力任せに冷たい風を吹きつけますが、旅人はかえって上着を強くつかんでしまいます。

一方、太陽が穏やかに照らすと、旅人は自ら上着を脱いだのです。



この寓話は、組織や人間関係にも通じるものがあります。

厳しい叱責や圧力で人を動かそうとする「北風型」の関わり方では、人は心を閉ざし、やがて意欲を失ってしまいます。結果として、創意工夫は生まれにくくなり、組織から離れてしまう人も出てくるでしょう。

これからの時代に求められるのは、そうした支配や統制ではなく、自主性を尊重し、相手の気づきを引き出す「**太陽型**」の関わり方ではないでしょうか。

上司であれば部下に対して、部下であれば同僚に対して、温かく照らす存在であってほしいものです。

一人ひとりが「小さな太陽」となれば、チーム全体がのびのびと力を発揮できるようになります。

それはすなわち「**心理的安全性**」の高い組織です。「こんなことを言ったら怒られるかもしれない」「恥ずかしいから言えない」といった空気がある職場には、太陽ではなく北風が吹いているのかもしれない。

もっとも、北風がすべて悪いわけではありません。時には厳しさも必要です。桜が美しく咲くためには「**休眠打破**」といわれる冬の寒風も欠かせません。大切なのは、そのバランスなのだと思います。



さて、この4月から後期高齢者を含めるすべての医療保険の被保険者から「**子ども・子育て支援金**」

の徴収が始まります。(社会保険料が翌月控除の会社においては5月給与から控除)

日本は今、急速な少子高齢化と人口減少という課題に直面しており、「静かなる有事」とも言われています。

この制度が有効に活用され、未来につながる支えとなることを願わずにはいられません。



日本神話における最高神は、太陽を司る神「天照大御神」とされています。

万物にエネルギーを与える**太陽は希望や未来の象徴**でもあります。

そんな太陽を尊ぶ日本の国旗には、中心に太陽が描かれて「日の丸」と呼ばれています。

実は、その赤い丸には「赤子」や「赤ちゃん」という意味があるという説もあるそうです。

幼な子を「赤」と表す文化は、他国にはあまり見られないものです。すると日本の国旗は、

「**太陽**」とともに「**赤ちゃん (=子ども)**」を真ん中に据えていることとなりますよね。

言うまでもなく「未来」を担うのは子どもたち。真ん中にあるのは、「希望と未来」です。

そう考えると、なんだか「日の丸」の国旗って素敵な旗のように思いませんか。

これからの少子化社会、僕もまた、「小さな太陽」でありたいと思うのです。^-^☆

